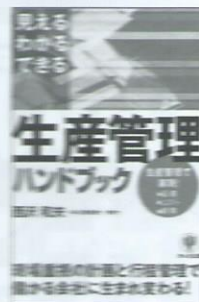
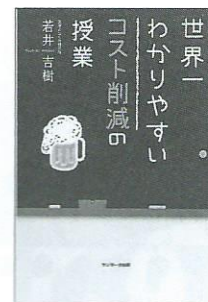


小さな会社こそが勝ち続ける
孫子の兵法経営戦略
◎長尾一洋著
(明日香出版社・一、五七五円)



生産管理ハンドブック
◎西沢和夫著
(かんき出版・一、五七五円)



世界一わかりやすい
コスト削減の授業
◎若井吉樹著
(サンマーク出版・一、四七〇円)

孫子は、今から2500年ほど前に書かれた、最古にして最強と言われる兵法書である。「計篇・作戰篇・謀攻篇・軍形篇・勢篇・虚実篇・軍争篇・九変篇・行事篇・地形篇・九地篇・用間篇・火攻篇」の13篇からなる短文の古典である。では、なぜ今、孫子なのか？

今の時代は、頑張るだけでは売れず、よいものを作ったからといっても売れるとは限らず、安くてもそれだけでは売れない時代だからである。

また、これだけ時代が大きく変わり、企業経営を取り巻く環境が激変しているからこそ、これまで多くの時代の変化を乗り越えながら、高い評価を得続けてきた孫子の兵法が生きる。

本書では、その「最強の兵法」を現代の経営に活かすために、孫子13篇の章順に、経営戦略、組織体制、意思決定のタイミング、変化への対応、人材育成、情報戦略など、69か所のポイントを厳選して解説を加えてある。

ただ単に軍事の解説ではなく、経営の解説に大きく意識しており、実際の企業経営にあるような具体的な事例とともに分かりやすく説明している。

経営者、マネージャーはもちろん、若い人が孫子を知り、古典を学び、これからの仕事に活かしていくためにお勧めの1冊である。

(日本IE協会事務局)

経済環境の悪化が、モノづくり企業を取り巻く経営環境にも大きな影響を与えた結果、生産現場で様々な変化が起こっている。特に人の変化がモノづくりに深刻な悪影響を及ぼしている。

本書は、第1部で、現在求められているモノづくりの基本と生産方式について述べ、第2部では、生産現場が取り入れるべき生産管理の基本、各種管理の仕組みと活用法についてまとめている。第3部では、生産計画とは何か、中日程計画の具体的な立て方、活用すべき管理手法と活用法を解説。第4部では、現場での工程管理の実践的な進め方や秘策、さらに工程管理において発生するトラブル解決の手法と活用法について説明している。そして第5部では、生産管理部門が工場トップと取り組むべき、工場生き残りのための改革と改善の手法を、現場ですぐに使えるように解説している。

著者が生産現場において検証してきた多くの手法を分かりやすく解説するとともに、多くのツールやチェックリスト、それらの実施例が多く紹介されており、現場でもすぐに活用できるように構成されている。

生産管理力の強化、企業の生き残りのための現場力強化をめざしている方々にお勧めの1冊である。

(日本IE協会事務局)

コスト削減というと、経費削減、仕入コストの削減、人のコスト削減などが頭に浮かぶ。経費削減は、取り組みやすく効果が見えやすい反面、広告宣伝費・営業費などを継続してカットすれば、支障が出る可能性がある。また、材料費は、コストの割合が大きい、仕入先との調整などで時間がかかる。人のコストは、マイナスのイメージ、優秀な人材の流出や従業員のモチベーション低下など、長期的に見て、決して得策とは言えない部分もある。

本書では、人員削減をせずにコストを減らす「人を生かすコスト削減」について、そのコツをひとつの物語を通して分かりやすく解説している。

物語では、製造会社勤務の野口君が、仕事で困っていることについて、居酒屋を営む叔父さんのところで話をしている。そこに、たまたま飲みに来ていた「謎のおじさん」のちょっとしたアドバイスによって、会社での課題を次々に解決していくというものである。人員削減の危機を乗り切るために、野口君がどのように成長し、また、改善活動を進めていくか。

物語を楽しく読み進めるうちに、「人を生かすコスト削減」とはどのようなことかを分かりやすく理解できるお勧めの1冊である。

(日本IE協会事務局)